

# 現職研修としてのお茶の水女子大学社会教育主事講習

三輪 建二（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

2011年度、筆者は生涯学習の分野での格差是正をめぐる問題として、特に社会教育職員の研修システムの改善とモデルプログラムに取り組んだ。具体的には、年間サイクルの新しい形の社会教育主事講習を実施したのである。

お茶の水女子大学社会教育主事講習の背景、工夫したプログラムの特色、格差問題への対応という論点に沿って、まとめてみたい。

## 1 社会教育主事講習とは

社会教育主事講習とは、社会教育主事に任命される行政職員を主たる対象として、夏休みの約40日間に、文部科学省が委嘱する国立大学法人（10程度）や国立教育政策研究所社会教育研修センターで実施される短期間の講習である。生涯学習概論（2単位、30時間）、社会教育特講（2単位、30時間）、社会教育計画（3単位、45時間）、社会教育演習（2単位、48時間）の9単位で構成され、通常は、7月下旬から8月にかけての約40日間、毎日集中で実施されている。この講習を受講し、修了証が発行されると、各自治体の教育委員会の判断で、社会教育主事の発令が出されることになる。

社会教育主事とは、教育委員会に所属するのが原則とされ、社会教育を行う者に対して指導・助言を担当する公務員であり、社会教育職員の中では国が定める資格となっている。

主事講習や社会教育主事をめぐっては格差という観点では、以下のような問題がある。

- ・社会教育主事講習は、実質的には自治体における学校教員の管理職登用の過程の一つとして位置づけられ、短期の社会教育主事講習の修了者は多くの場合、3年程度社会教育主事を務めた後は管理職として学校に戻り、社会教育の分野に定着しない。
- ・教育人事の一環として利用されていることから、また夏休みとはいえ40日間の短期集中であることから受講者の9割は男性であり、家庭を持つ女性の参加率は極めて低い。
- ・初心者向けの講義中心であり、講座の企画や施設のマネジメントなどの実務能力の養成はきわめて困難であり、理論と実践との乖離が生じている。

## 2 お茶の水女子大学社会教育主事講習の特徴

以上の問題点を克服するために、年間サイクルのお茶の水女子大学社会教育主事講習を平成23年5月から開始することになった。文部科学省生涯学習政策局社会教育課からの委託事業であるが、その特色をまとめると、以下の表1のようになる。

表1 社会教育主事講習の比較

	従来 <sup>1</sup> の社会教育主事講習	お茶の水女子大学社会教育主事講習
設置主体	13大学、1機関	お茶の水女子大学
募集者数	計1035人(各30～120人)	40人(受講者37人)
期間	短期集中(約40日間)	通年(5～2月)
実施日	夏休み中	月曜夜・土日集中など 現場のリズムに合わせる
参加者	自治体職員 教員(管理職のステップ) おおむね常勤職員	社会教育関係職員(常勤・非常勤)、行政職員(常勤・非常勤)、指定管理者職員、市民委員、学生・院生、教員、財団・NPO職員、保健師・栄養士・児童館職員など
性別	男性中心	女性7割
宿泊・通い	県内・隣接県からの参加 通い・宿泊	東京・神奈川・埼玉・茨城から通い
応募	教育委員会の推薦	教育委員会の推薦 インターネット等の周知による公務員以外の参加
経費負担	受講料は無料、教材費実費	受講料無料、教材費等年間20,000円
講師	科目・授業ごと	講師集団(6名)の形成
受講者のグループ		5～6人、7グループに 年間を通じた関係づくり
ファシリテーター		社会教育主事有資格者、現職者・院生がグループを担当

出典：平川景子「実践力養成に向けた社会教育職員養成の課題」日韓学術研究交流集会、東義大学(釜山)、2012.1.29より

表1にある特徴をまとめると、以下のようになる。

- ・社会教育指導員や公民館主事をはじめとする社会教育関係の仕事に関わっており、主事資格を取得していない方々を対象に、社会教育の職務のサイクルに合わせた通年の主事講習を開催することが可能となっている。
- ・社会教育主事になることを特に目指さない、社会教育指導員、市民委員、NPO職員、指定管理者職員等や、教育委員会以外の職務の公務員（保健師など）も参加しており、社会教育的な実践力やマネジメント力を培えるようになっている。

これは、日本社会教育学会が議論している、「学びあうコミュニティのコーディネーター」というアイデアとも一致しており、社会教育主事に限定されない、幅広い対人援助職、まちづくりの担い手が受講者対象になっている（表2を参照）。

表2 〈学びあうコミュニティ〉のコーディネーター

<p>① 社会教育関係職員</p> <p>公民館主事、青少年施設・女性教育施設・男女共同参画センターなど社会教育関連施設の職員、社会教育指導員など。</p> <p>② 地域の教育・自治・文化・福祉にかかわる専門職</p> <p>保健師・看護師、児童館職員、ユースワーカー、社会福祉関係職員など。</p> <p>指定管理者やNPOの職員、ボランティア団体のコーディネーター</p>
---

出典：日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社より作成

- ・主事講習での女性の参加率は10%平均であったが、お茶の水女子大学の社会教育主事講習の女性の参加率は約7割であり、この点での男女の格差解消に多いに貢献している。
- ・講習のカリキュラムは、講師による講義と受講生の話し合いとが同時並行的に進むように編成されている。年間を通じて、グループ単位での話し合いが行われ、受講生自身の実践の経験をふり返り、また講義の理論に照らし合わせながら、経験がもつ意味について考えを深めていくことが目指されている。
- ・社会教育計画と社会教育演習では、講師とファシリテーターがグループを編成してかかわることで、受講者の講習と職場との往還の様子を具体的に理解し、また講師と受講生

とが平等の立場で話し合う関係がつくられている。受講生と講師・ファシリテーターの間で「学び合うコミュニティ」が創造されるよう努力している。

修了が2月12日であり、アンケートによる評価はこれからであるが、主任講師である筆者にも、例えば、「出会いと気づきがとても多い講習になっていて、自分の中にあった活動の原点のようなものに気づく機会がある」「活動をしていて自分を振り返る機会があまりなかったが、自分の中に核となるものが出来つつあるような気がしている」「学ぶ仲間の意欲的なエネルギーから刺激を受けている」といった声が寄せられている。

単年度の委嘱事業であるが、できるだけ毎年続けていきたいと思う。

#### 参考文献

- ・日本社会教育学会 社会教育・生涯学習関連職員問題特別委員会「知識基盤社会における社会教育の役割—職員問題特別委員会 議論のまとめ—」『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社 2009 p.5-30
- ・平川景子「実践力養成に向けた社会教育職員養成の課題」日韓学術研究交流集会、東義大学（釜山）、2012.1.29
- ・三輪建二「大学におけるコミュニティ学習支援者の力量形成—お茶の水女子大学の社会教育主事講習を中心に—」月刊社会教育（国土社）、2011年12月号、pp.4-12